

8. 当院の放射線治療品質保証室の活動について

伊藤 憲一, 浅賀 昭彦, 半田 久枝
仲山 昌宏, 佐藤 宏, 渡邊 陽介
井上 浩一, 片野 進

(栃木県立がんセンター 放射線治療部)

【目的】 当院では2013年1月に放射線治療品質保証室が設立された。設立後の具体的な業務内容を提示するとともに、業務を通して改善された事例について報告する。【方法】 当院で実施している放射線治療品質管理業務について、手順書の作成やスタッフ間での測定項目の事前検討を実施した。また、測定結果については治療部掲示板やホームページへ情報開示を定期的実施した。【結果】 スタッフ間で測定項目の事前検討を実施することで、品質管理業務に対して目的意識が向上、積極的に測定業務を実施できた。測定結果の情報開示では、院内外へ安全な放射線治療実現への取り組みの姿勢を示すことができた。【結語】 放射線治療の質の向上を目指して業務改善をした結果、放射線治療品質管理業務の重要性や保証室の活動をアピールすることができた。

9. 画像照合系一回転中心検証用ツールの使用経験

関根 信教, 中村 康隆, 北爪 翔太
宮田 治郎 (伊勢崎市民病院)

【目的】 本年3月、Clinac iX (Varian社)を更新し、市販のQAツール(TM-WINS:R-Tech社)を用いて画像系回転中心の精度検証を行っている(WinstonLutz Test)。Varian-ARIA-ワークステーション(WS)の計測ツールによる結果と相互比較したので報告する。【方法】 ① WinstonLutz Test 器具のタングステン球をレーザー中心に合わせ、ガントリー角度0, 90, 180, 270度の4方向から曝射し、kV(OBI系)、MV(ポータルビジョン系)のデータを取得し、市販ソフトTM-WINSに転送・解析した。② Blade Calibration Plateを用いて同様の方法によりkVのデータを得、ARIA上で評価した。【結果】 基準点からの偏差は市販ソフトで約1mm以内、ARIA上では0.5mmとなり、相互の差異は0.5mmとなった。【まとめ】 今回、2つの異なる方法にて検証したが結果に差異が生じた主な原因は、位置補正ソフト「IsoCal」の影響によると考えられた。

〈教育講演〉

15:00-15:25

座長：大野 達也

(群馬大学重粒子線医学研究センター)

〈一般演題 看護〉

15:40-16:20

座長：牛島 康子 (群馬大医・附属病院・看護部)

10. 化学放射線療法を行う頭頸部患者への看護の振り返り
—オレムの看護論を用いて—

深町 恵里, 牛島 康子, 中村 真美
今井 裕子

(群馬大医・附属病院・北6階病棟)

【目的】 化学放射線療法を行う患者が、口腔粘膜障害の悪化を予防するためにセルフケアに取り組み、セルフケア行動を獲得するまでの過程をオレムのセルフケア理論を用いて考察する。【対象と方法】 化学放射線療法を行う食道癌患者1名の入院中の診療録からデータを収集し、オレムのセルフケア理論と照らし合わせて看護を振り返り分析した。【結果】 看護師は、患者の口腔ケアに対するセルフケア能力をアセスメントし、患者の不足情報を提供したりセルフケア能力が維持、向上出来るよう介入した。また、セルフケアが行えていることに対して労いの言葉をかけたり苦勞していることはないか確認した。その結果、患者が意欲的にセルフケアを継続し口腔粘膜障害を予防できたと考えられた。【結語】 患者のセルフケア能力をアセスメントし、対象に合わせた看護介入を行うことは、患者のセルフケア行動の維持・向上につながる。

11. 重粒子線治療を受けた耳下腺がん患者の自己効力感を高めるための介入

井上 友里, 今井 裕子, 登丸真由美
中村 真美, 加藤 康子

(群馬大医・附属病院・北6階病棟)

【目的】 耳下腺がんの重粒子線治療を受けた患者に対し、患者自身の自己効力感を高める看護介入を検討する。【対象と方法】 重粒子線治療を受ける耳下腺がん患者1名を対象とし、診療録や患者の言動から、患者の自己効力感の変化を振り返った。【結果】 患者は治療やセルフケアに対する成功体験や同じ治療を行なった患者の代理的体験を重ね、他者からの言語的説得を繰り返し経験したことで、自己効力感が高まり、セルフケアが継続できた。治療の経過の中で、一時的に自己効力感の低下がみられたが、思いを共有し支持的な看護介入を行うことで、患者の自己効力感を高めることに繋がった。【結語】 自己効力感を高める看護介入を継続していくことは、患者が治療を完遂するために重要である。

子宮癌の放射線治療のピット・フォール

若月 優 (放射線医学総合研究所)